

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月14日
【四半期会計期間】	第71期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	株式会社トミタ
【英訳名】	TOMITA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 富田 薫
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座八丁目3番10号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区大森中一丁目18番16号
【電話番号】	(03)3765-1219(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 中村 龍二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第1四半期連結 累計期間	第71期 第1四半期連結 累計期間	第70期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成29年4月1日 至平成29年6月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	5,512,234	5,349,138	21,917,193
経常利益 (千円)	216,313	214,975	968,445
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	143,550	137,204	644,109
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	18,075	155,028	852,263
純資産額 (千円)	6,905,852	7,725,750	7,775,992
総資産額 (千円)	13,657,269	14,742,736	14,921,857
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	25.88	24.73	116.10
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.5	51.4	51.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の回復にも助けられ緩やかな回復基調が続きました。

わが国の工作機械業界は、当第1四半期連結累計期間は、国内で需要が増加し前年同期比21.5%増加、海外でも需要が増加し前年同期比36.0%増加、結果、国内外全体の受注額は30.0%増加し4,065億円となりました。

こうした環境下、工作機械を主力取扱い商品とする当社グループの受注・売上に付きましては国内では増加したものの、海外では減少し、国内外全体では若干の減少となりました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は53億4千9百万円(前年同期比3.0%減)、営業利益は1億9千5百万円(同12.5%増)、経常利益は2億1千4百万円(同0.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億3千7百万円(同4.4%減)となりました。

セグメント別の業績は次の通りであります。

日本

工作機械の受注・売上が増加し、当第1四半期連結累計期間の売上高は35億4千万円(前年同期比10.5%増)となりましたが、営業利益は9千2百万円(同10.4%減)となりました。

北米

自動車メーカー関係向けの受注・売上が減少し、当第1四半期連結累計期間の売上高は9億7千8百万円(前年同期比5.3%減)となり、営業利益は6千6百万円(同12.6%減)となりました。

欧州

自動車メーカー向けの受注・売上が減少し、当第1四半期連結累計期間の売上高は7千6百万円(前年同期比41.9%減)となり、営業損失は0百万円(前年同期は2百万円の営業利益)となりました。

アジア

自動車・2輪車メーカー関係向けの受注・売上が減少し、当第1四半期連結累計期間の売上高は7億5千3百万円(前年同期比34.1%減)となりましたが、営業利益は3千8百万円(前年同期は1百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は147億4千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億7千9百万円減少しました。

流動資産は108億9千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億9千2百万円減少しました。これは主として受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

固定資産は38億4千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ1千3百万円増加しました。これは主として投資有価証券の増加によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は70億1千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2千8百万円減少しました。

流動負債は60億2千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ8千万円減少しました。これは主として支払手形及び買掛金の減少によるものです。

固定負債は9億9千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ4千8百万円減少しました。これは主として役員退職慰労引当金の減少によるものです。

純資産は77億2千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ5千万円減少しました。これは主として為替換算調整勘定の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に対する重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,858,000
計	23,858,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,158,000	6,158,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,158,000	6,158,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	6,158,000	-	397,500	-	280,300

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 610,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,547,000	55,470	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	6,158,000	-	-
総株主の議決権	-	55,470	-

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社トミタ	東京都中央区銀座8丁目 3番10号	610,200	-	610,200	9.91
計	-	610,200	-	610,200	9.91

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,037,682	5,040,610
受取手形及び売掛金	4,890,715	4,380,522
商品	523,452	621,220
その他	637,628	854,356
流動資産合計	11,089,479	10,896,710
固定資産		
有形固定資産	1,090,226	1,083,206
無形固定資産	15,304	13,334
投資その他の資産		
投資有価証券	1,572,312	1,602,491
投資土地	787,862	787,862
その他	379,237	371,695
貸倒引当金	12,565	12,565
投資その他の資産合計	2,726,847	2,749,485
固定資産合計	3,832,378	3,846,026
資産合計	14,921,857	14,742,736
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,036,596	4,580,616
短期借入金	272,718	271,519
未払法人税等	99,355	17,477
賞与引当金	108,000	39,300
役員賞与引当金	46,000	-
その他	539,033	1,112,299
流動負債合計	6,101,704	6,021,212
固定負債		
長期借入金	66,700	54,205
役員退職慰労引当金	281,989	218,681
退職給付に係る負債	6,058	6,222
その他	689,412	716,664
固定負債合計	1,044,161	995,772
負債合計	7,145,865	7,016,985

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	397,500	397,500
資本剰余金	280,300	280,300
利益剰余金	5,745,222	5,749,281
自己株式	131,532	131,532
株主資本合計	6,291,490	6,295,549
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	763,029	781,752
繰延ヘッジ損益	7,127	-
土地再評価差額金	529,500	529,500
為替換算調整勘定	47,732	35,550
その他の包括利益累計額合計	1,333,134	1,275,702
非支配株主持分	151,367	154,498
純資産合計	7,775,992	7,725,750
負債純資産合計	14,921,857	14,742,736

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	5,512,234	5,349,138
売上原価	4,720,706	4,507,205
売上総利益	791,527	841,932
販売費及び一般管理費	618,051	646,745
営業利益	173,475	195,187
営業外収益		
受取利息	1,140	600
受取配当金	11,112	12,018
受取賃貸料	21,451	21,748
為替差益	15,686	-
その他	5,167	5,869
営業外収益合計	54,557	40,237
営業外費用		
支払利息	880	1,109
不動産賃貸費用	5,932	6,436
債権売却損	2,246	2,587
為替差損	-	8,480
その他	2,659	1,835
営業外費用合計	11,720	20,449
経常利益	216,313	214,975
特別利益		
固定資産売却益	2,225	568
特別利益合計	2,225	568
特別損失		
固定資産除却損	-	346
特別損失合計	-	346
税金等調整前四半期純利益	218,539	215,197
法人税、住民税及び事業税	34,383	35,316
法人税等調整額	32,843	38,941
法人税等合計	67,227	74,257
四半期純利益	151,311	140,939
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,761	3,734
親会社株主に帰属する四半期純利益	143,550	137,204

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	151,311	140,939
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,857	18,723
繰延ヘッジ損益	10,004	7,127
為替換算調整勘定	140,525	11,762
その他の包括利益合計	169,387	14,089
四半期包括利益	18,075	155,028
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,539	150,873
非支配株主に係る四半期包括利益	463	4,154

【注記事項】

(会計方針の変更)

(重要なヘッジ会計の方法の変更)

従来、当社は主として繰延ヘッジ処理を採用しており、また、為替予約、通貨オプション及び通貨スワップについては振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を行っておりましたが、当社のヘッジ方針等の見直しを行った結果、外貨建金銭債権とデリバティブ取引の状況をよりの確に四半期連結財務諸表に反映させるため、当第1四半期連結会計期間より原則的処理方法に変更いたしました。

当該会計方針の変更は、過去の期間に与える影響額が軽微であるため、遡及適用しておりません。

また、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産及び投資その他の資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	13,032千円	13,611千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	166,432千円	30.00円	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	133,145千円	24.00円	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	欧州	アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	3,203,991	1,033,036	131,916	1,143,288	5,512,234
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,022,787	289,303	5,003	3,402	1,320,497
計	4,226,778	1,322,340	136,920	1,146,691	6,832,731
セグメント利益又は損失()	103,388	76,093	2,023	1,171	180,334

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	180,334
セグメント間取引消去	6,858
四半期連結損益計算書の営業利益	173,475

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計
	日本	北米	欧州	アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	3,540,513	978,320	76,681	753,623	5,349,138
セグメント間の内部売上高又は振替高	698,609	3,284	140	2,926	704,961
計	4,239,122	981,605	76,821	756,549	6,054,099
セグメント利益又は損失（ ）	92,612	66,499	931	38,759	196,939

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	196,939
セグメント間取引消去	1,751
四半期連結損益計算書の営業利益	195,187

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	25円88銭	24円73銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	143,550	137,204
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(千円)	143,550	137,204
普通株式の期中平均株式数(株)	5,547,736	5,547,736

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月10日

株式会社トミタ

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石戸 喜二 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 光一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トミタの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トミタ及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。